

令和3年度 全国学力・学習状況調査

大仙市分析結果



I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年生, 中学校3年生
- 3 実施教科 国語, 算数・数学
- 4 調査内容
 - ①教科に関する調査 (国語, 算数・数学)
知識・技能等に関する問題と活用する力等に関する問題
 - ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- 5 実施期日 令和3年5月27日 (木)
- 6 調査方式 悉皆調査
- 7 調査対象

全国 (国公立私立小学校)	19,280校	(実施率 98.7%...1,005,600人)
秋田県公立小学校	182校	(実施率 99.5%.....6,669人)
全国 (国公立私立中学校)	10,316校	(実施率 93.8%.....932,884人)
秋田県公立中学校	111校	(実施率 98.2%..... 6,745人)

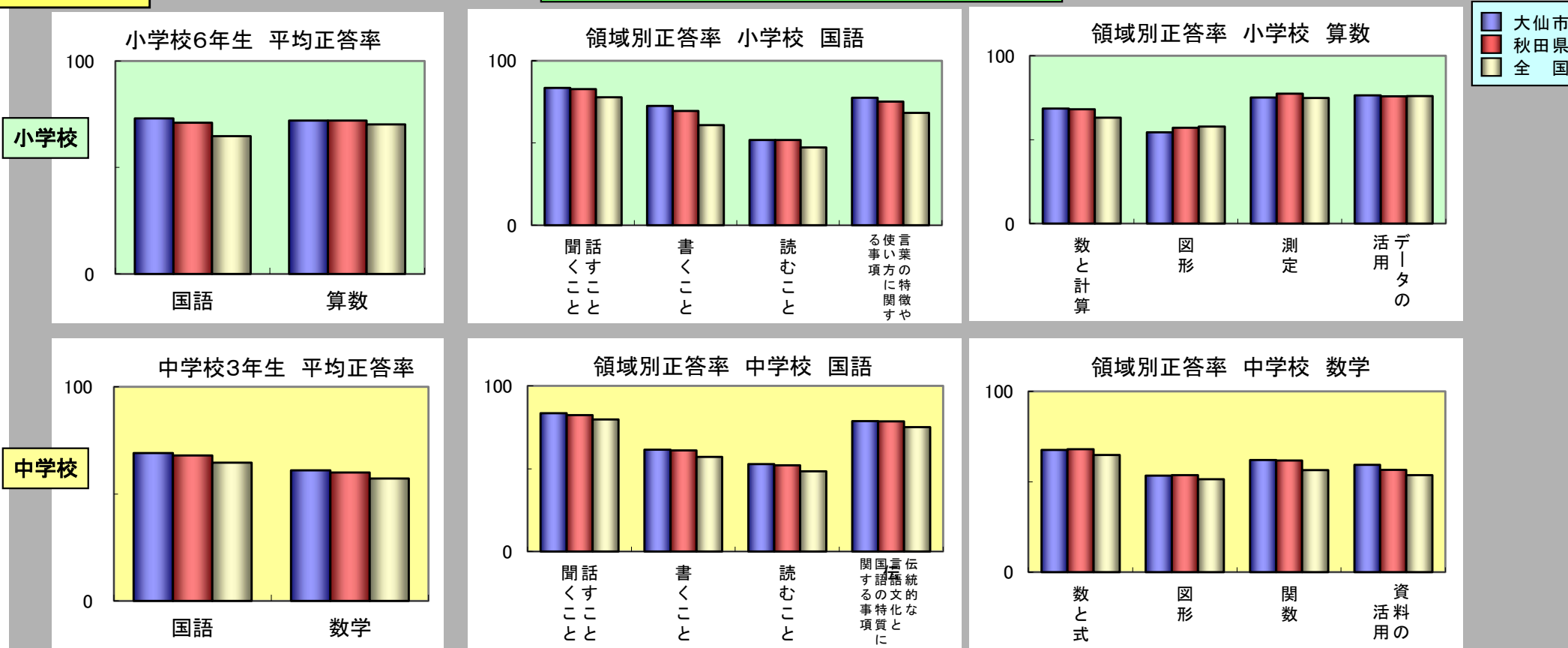
Ⅱ 教科に関する調査結果

1 概要

- 小・中学校ともに、全ての教科が、本県の平均正答率と同程度か上回っていることから、良好な状況にある。
- 教科別・領域別平均正答率の状況から見ると、算数・数学に課題が見られる。特に「図形」の領域については小・中学校ともに県平均を下回り、小学校においては全国平均を下回っている。図形を構成する要素（辺や角など）に着目して必要な情報を選び出したり、いつでも成り立つ性質を見い出したりして、自分の言葉で表現する活動を充実していく必要がある。

2 結果

【資料1】教科別・領域別平均正答率の状況



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

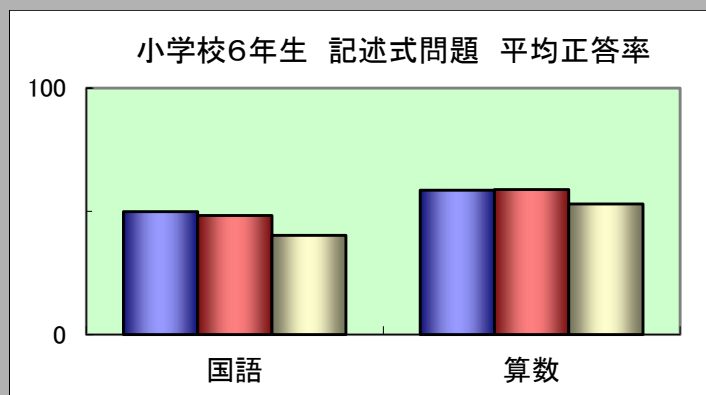
1 傾向

◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

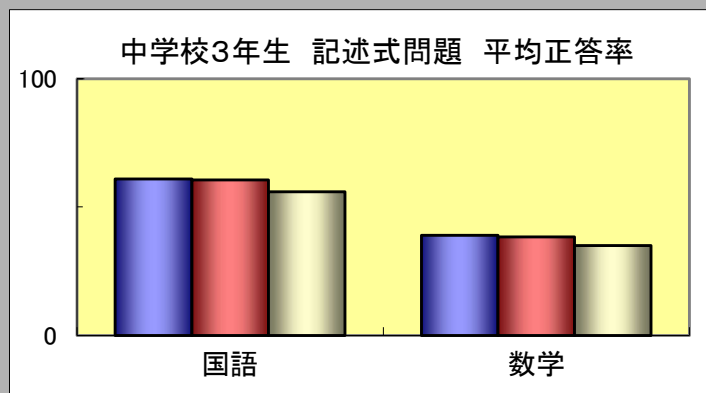
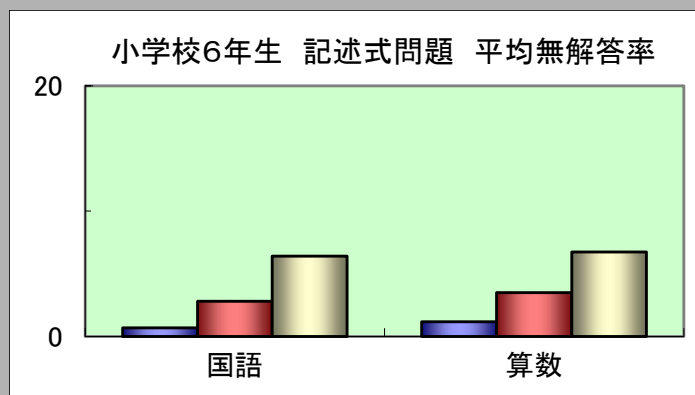
○記述式問題については小・中学校ともに、全ての教科が、本県の平均正答率と同程度か上回っており、全国よりも上回っている。また、無解答率については、小学校・中学校共に、全国や本県よりも低く、概ね良好な状況が維持されている。特に小学校においては、ほとんどの児童が記述式問題に解答している状況である。

○正答数の分布から、正答数が少なかった児童生徒の割合が相対的に少ない状況は維持されている。（P. 24～25参照）

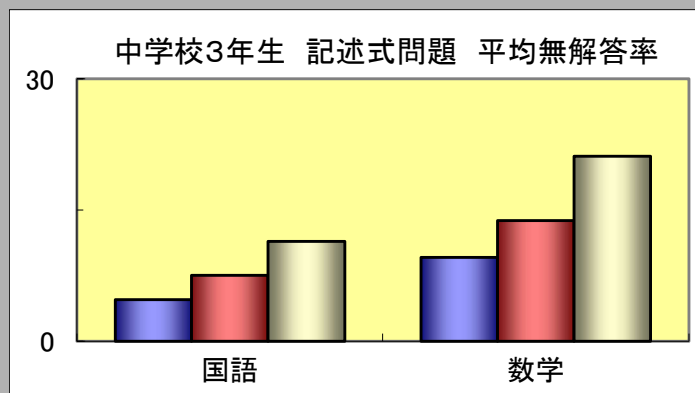
【資料2】記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



小学校



中学校



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

2 要因

① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

- 各学校では 基本的な学習習慣の確立と、失敗が受容される温かな人間関係づくりが進められている。
- 授業の中で、考えや意見を書いたり、発表したりするなどの機会と場を積極的に取り入れている。

② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

- 復習を中心とした家庭学習の充実と継続が図られ、学校では基礎テストや放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。
- 学校の授業では、チームティーチングや少人数指導など、児童生徒の実態に応じた指導形態の工夫が効果的に行われている。

③ 児童生徒に活用する力を育成する授業改善が進められている。

- 考えを発表したり話し合ったりする活動を取り入れた児童生徒主体の対話的な授業や、目的に応じて文章を読んだり、根拠を基に説明したりする授業など、思考力、判断力、表現力等の育成につながる授業が積極的に進められている。

④ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- 小学校における一部教科担任制の活用やタブレット端末の活用、小・中連携による9年間を見通した指導などにより、学習活動が充実し、学びの円滑な接続が図られている。
- 教育専門監の活用や教科担任制による魅力ある授業、地域人材等の活用による専門的な学習活動が行われている。

⑤ 各学校の取組を支援する県・市の施策を積極的に活用し、推進している。

- 県の学習状況調査事業やあきたの教育力充実事業等、県の学力向上に係る施策を本市の学校は積極的に活用している。
- 地域学校協働活動本部事業などを中心に、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。
- 各校のPTA及び市PTA連合会等を通じて、学力向上・基本的生活習慣の確立に向けた取組について保護者の理解・啓発を図っている。
- 市独自の施策を推進している。
 - ・心ふれあうさわやか大仙事業「中学生サミット」（生徒会活動とSDGs～地域、いじめ・差別、ボランティア・災害～、SNSルールや使い方等）の実施、体験的学習時間支援事業の実施、学校生活支援員、日本語指導支援員等の配置
 - ・市教職員研究集会、職務別研修会の開催
 - ・学校訪問の実施（教育委員会訪問、指導主事訪問 など）
 - ・秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、県立高等学校、県立特別支援学校等との交流・連携
 - ・「大仙ふるさと博士育成」事業、大仙グローバルジュニア育成事業、人権ユニバーサル事業の実施
 - ・大仙教育メソッドに基づく各種連携の推進

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

3 課題

- 小学校においては、国語の「目的や意図に応じて資料を使って話したり、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約したりする」ことに課題がある。算数の「図形の領域」については、すべての問題において本県や全国の平均正答率を下回っている。
- 中学校においては、国語の「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」において、本県の平均正答率を下回る問題がある。数学の「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」については、全国及び県と同様に平均正答率が低くなっている。

課題がみられた問題例（国語）

＝国語の課題と改善に向けて(小学校)＝

※県平均正答率を下回った問題

■R3年度の調査結果に基づく主な課題

- ・目的や意図に応じて、資料を使って話すことに課題が見られる。
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することに課題が見られる。

□指導改善の主なポイント

- ・資料を提示しながら話す際は、資料を用いる目的や意図を明確にして、聞き手にどの部分に着目してほしいのか、また、どのような説明を加えるとわかりやすく伝えられるのかを考え、自分の表現に生かすことが大事である。また、聞き手のうなずきや表情にも注意する必要がある。
- ・文章を要約するためには、目的に応じて文章全体から必要な部分を選び、内容を端的に説明することが大切である。その際、要約する分量などについても目的に応じて考える必要がある。また、同じ文章を読んでも、読み手の目的によって内容の中心となる語や文は異なるため、要約した文章も異なるものになることを確認する必要がある。

※県平均正答率を下回った問題

【小学校国語 1三】

県平均正答率 84.6%

○目的や意図に応じて、資料を使って話すことができる。

※県平均正答率を下回った問題

【小学校国語 2四】

県平均正答率 34.0%

○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。

※全国及び県と同様に、平均正答率が低い問題

【中学校国語 3四】

全国平均正答率 20.5%

県平均正答率 27.2%

○文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができる。

＝国語の課題と改善に向けて(中学校)＝

■R3年度の調査結果に基づく主な課題

- ・文脈の中における語句の意味を理解することに課題がある。
- ・相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題がある。

□指導改善の主なポイント

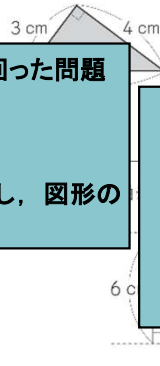
- ・文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めるように指導する必要がある。
- ・言葉遣いについて、公的な場面での使い方とともに、会話をしたり手紙を書いたりする際に相手に応じた語句を選んで用いることについても留意する必要がある。

③ 次は、「読む」の作品「読む」は「読む」の本の巻頭上に書かれている「読む」と「文章の語」について、これらを読み解いてみる。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

2

図1のような直角三角形があります。



※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【小学校算数2(1)】

全国平均正答率 55.1%

県平均正答率 52.2%

○必要な情報を図形から選び出し、図形の面積を求めることができる。

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

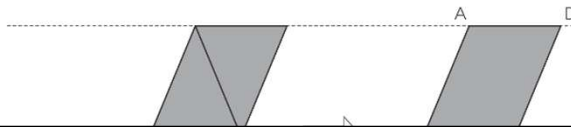
【小学校算数2(2)】

全国平均正答率 72.5%

県平均正答率 71.9%

○複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる。

上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。



＝算数の課題と改善に向けて(小学校)＝

※県の平均正答率を下回った問題

■R3年度の調査結果に基づく主な課題

- ・図形の計量について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、筋道を立てて説明することに課題が見られる。
- ・日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、必要な数量やその関係を捉え、数学的に表現・処理することに課題が見られる。

□指導改善の主なポイント

- ・図形の面積の学習では、公式を用いる上で不要な辺や線分の長さを示した図を提示し、必要な情報を選び出す活動を取り入れる。
- ・どちらが速いかを比べる際は、速さを求める除法の式と商の意味を理解できるようにする。また、同じ時間で長く走った方が速いという日常の経験を想起しながら、速さについて求めた商の大小で判断できるようにする。

課題がみられた問題例(算数・数学)

⑧ 桃花さんは、5月にA市のキャンプ場に行くことになりました。キャンプの準備をするために、キャンプ場の過ごしやすさについて、気候に着目し、A市の昨年5月の最高気温、最低気温、日照時間、最大瞬間風速、降水量をインターネットで調べました。さらに、調べた

※全国及び県と同様に、平均正答率が低い問題

【中学校数学7(2)】

全国平均正答率 27.7%

県平均正答率 31.9%

○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【中学校数学3】

全国平均正答率 68.1%

県平均正答率 70.2%

○扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している。

	27.3	12.8	14.5	10.3	8.2	0.0
4日	20.3	11.8	8.5	2.5	9.5	0.0
5日	23.5	9.4	14.1	9.9	11.9	0.5
6日	13.2	5.5	7.7	0.1	8.7	2.0
...

＝数学の課題と改善に向けて(中学校)＝

※県の平均正答率を下回った問題

■R3年度の調査結果に基づく主な課題

- ・事象に即して解釈したことを数学的に表現したり、問題解決の方法を数学的に説明したりすることに課題が見られる。
- ・図形の学習において、事象の特徴を的確に捉えたり、図形を構成する要素の位置関係を理解したりすることに課題が見られる。

□指導改善の主なポイント

- ・図形を構成する要素について、伴って変わる数量に着目して、その関係を見いだすことができるようにする。また、図形の性質を数量の関係に着目して捉え直し、その特徴を数学的に表現することができるようにする。
- ・実験で得られたデータを理想化したり単純化したりして、その特徴を的確に捉えることができるようにする。また、問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする。

各多角形の面積の算出方法を比較し、説明しなさい。

IV 学習環境に関する調査の結果

1 概要

- 小・中学生共に、ほとんどの項目で全国や本県の平均を上回っており、児童生徒は概ね望ましい生活環境の中で、基本的な生活習慣及び学習習慣を確立し、意欲的に学習に取り組んでいる。
- 児童生徒主体の授業づくりや、達成感・自己有用感をもたせる機会と場の充実を図ることで学ぶ意欲が高まるとともに、地域や異校種間との交流や連携を基盤とした体験活動等を通して豊かな心が育まれている。

2 結果

(1) 学習状況

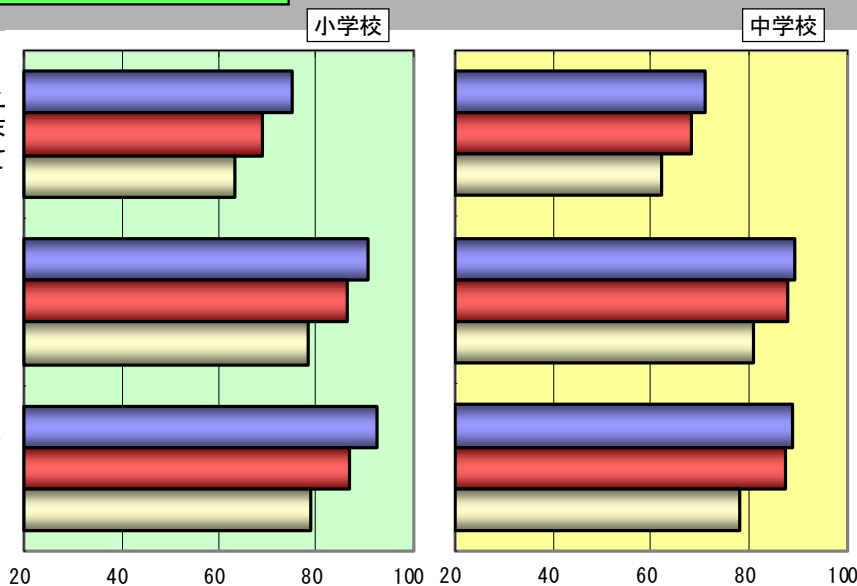
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料3】「主体的・対話的で深い学び」の経験

前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う

前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う

友達（児童生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思う



前年度までの授業について

- 課題解決に向けて、主体的に学ぶことに取り組んでいたと回答している児童生徒が、全国や本県を上回っている。
- 考えを発表するときには、相手意識をもって、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答している児童生徒が、全国や本県を上回っている。
- 「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりできている」についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、学習活動の質が高まってきている。



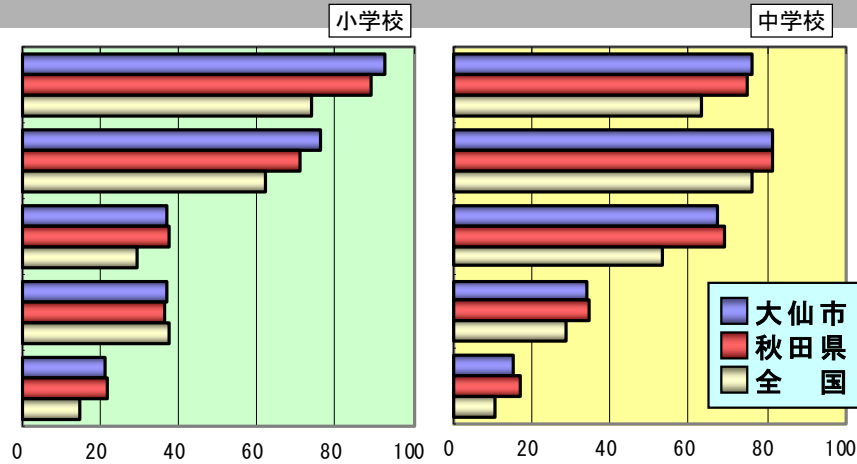
IV 学習環境に関する調査の結果

2-(2) 学習習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】児童生徒質問紙調査結果より

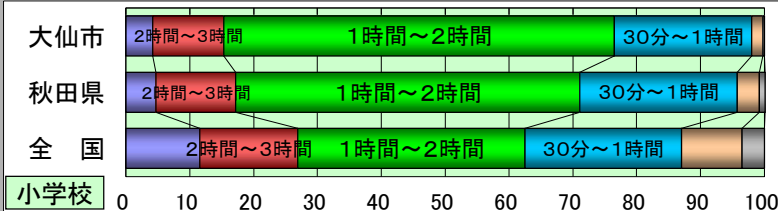
【資料4】家庭学習の様子

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている
- 学校の授業時間以外での平日の勉強時間(1日1時間以上)
- 学校の授業時間以外での休日の勉強時間(1日2時間以上)
- 家や図書館での平日の読書の時間(1日30分以上)
- 新聞を読んでいる(週1回以上)

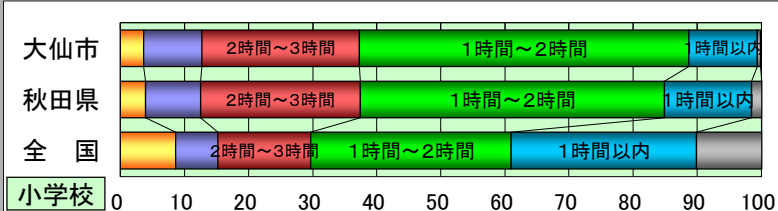


- 小・中学生共に自ら学ぶ姿勢が身に付いている。
- 平日及び休日の学習時間が「1時間以上」の割合は、全国や本県の平均と同程度か上回っており、「全くしない」の割合は少ない。家庭でも計画的に学習に取り組んでいる様子が見られる。
- 平日、1日30分以上の家や図書館での読書時間や週1回以上新聞を読んでいる割合は本県や全国の平均と同程度か上回っている。しかし、「読書を全くしない」児童生徒が1~2割、「全く新聞を読まない」児童生徒が4~5割おり、学校や家庭での読書時間の確保や授業における新聞の利用など工夫が必要である。

【資料5-1】平日の学習時間



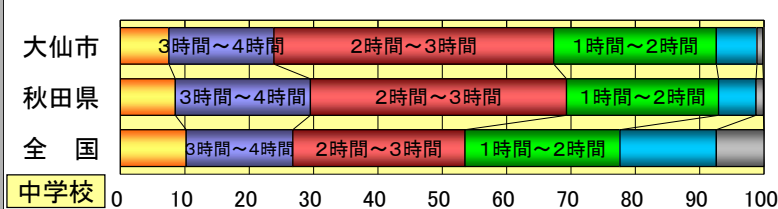
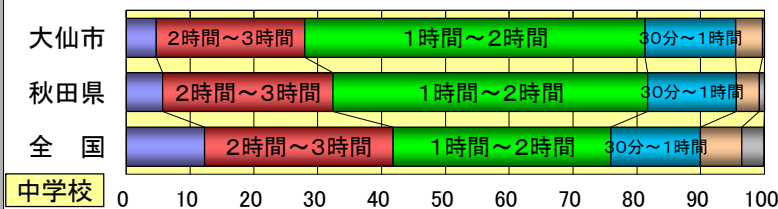
【資料5-2】休日の学習時間



【資料6】平均学習時間

【単位：分】

小学校	平日	休日
大仙市	120	150
秋田県	110	140
全国	120	120



中学校	平日	休日
大仙市	130	170
秋田県	130	180
全国	130	160

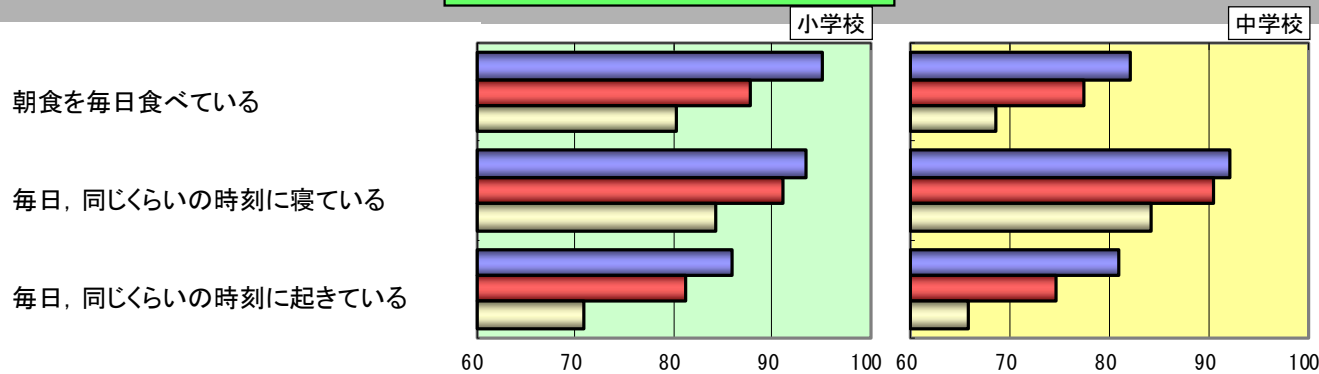
平日 3時間以上 2~3時間 1~2時間 30分~1時間 30分未満 全くしない
 休日 4時間以上 3~4時間 2~3時間 1~2時間 1時間未満 全くしない

IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (3) 生活習慣

【資料7】基本的な生活習慣等

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

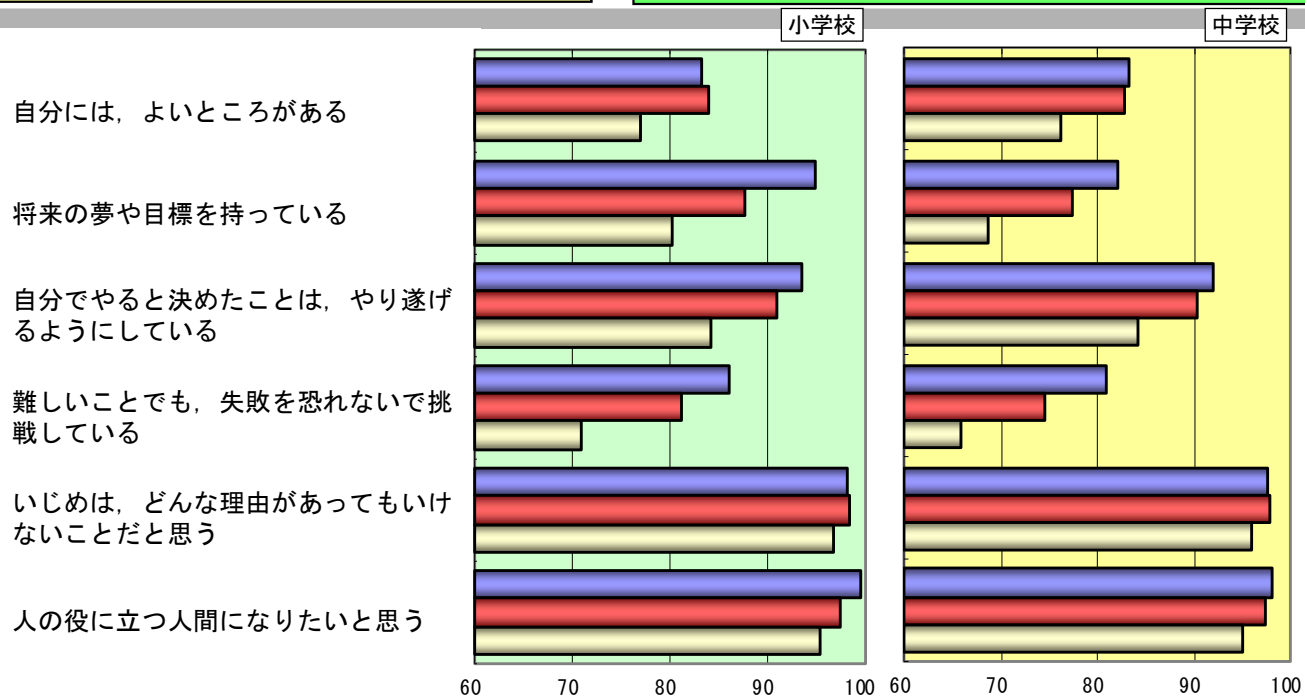


○早寝、早起き、朝ごはんによって代表される生活習慣に関する項目で、国や県の平均を上回る良好な状況にあり、家庭での子どもへの意識付けや教育がなされ、また、学校との連携が図られていることがうかがえる。



2 - (4) 自己肯定感, 規範意識等

【資料8】自己肯定感, 自己有用感, 将来への目標, 規範意識等



○自己肯定感や自己有用感、夢や目標を持つことに関する項目で、小・中学校共に良好な状況にある。互いを認め合う学習環境の中で、児童生徒が目標をもって学んでいることの成果と捉えられる。

○自分でやると決めたことは、やり遂げようとしていたり、難しいことにも挑戦したりする児童生徒の割合が多い。また、いじめはどんなことがあっても許さない、人の役に立ちたいなどの思いやりの心も好ましい状況にある。

●自己肯定感や自己有用感、夢や目標をもつことについては、年齢が上がるにつれて割合が下がる傾向にある。小中連携で個人のよさを認められるように引き継ぎを行っていききたい。

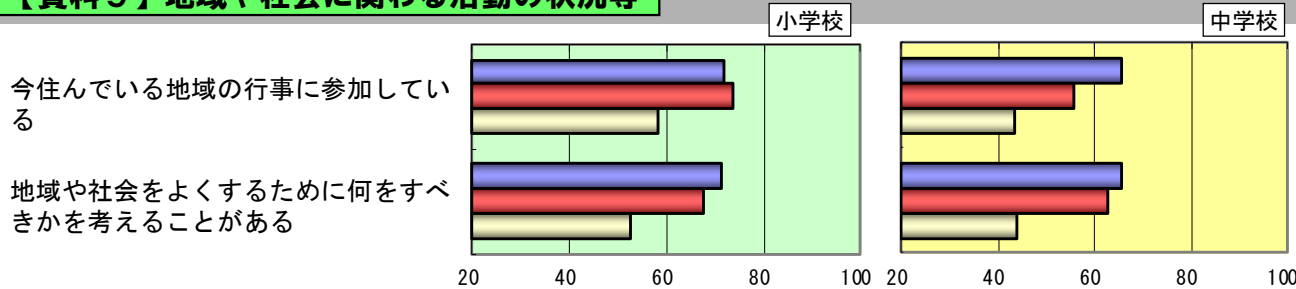


IV 学習環境に関する調査の結果

2-(5) 地域への関心, ICTの活用状況, 新型コロナウイルス感染症の影響

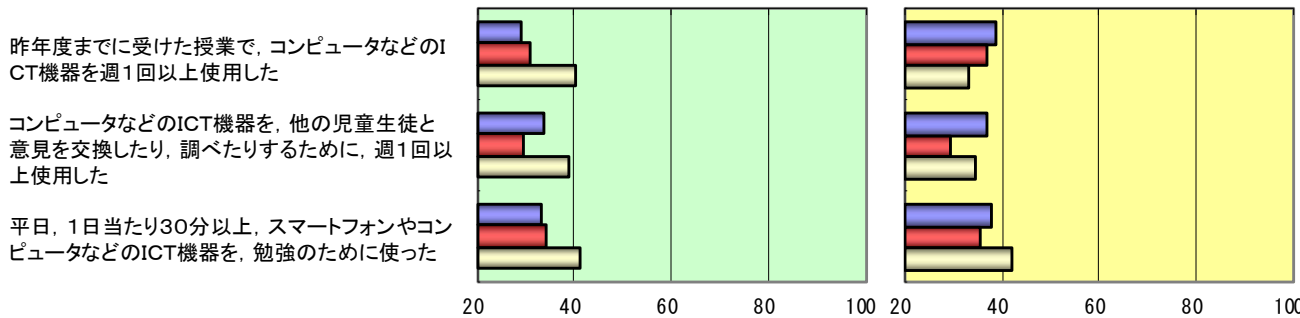
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県全国の比較】
児童生徒質問紙調査結果より

【資料9】地域や社会に関わる活動の状況等



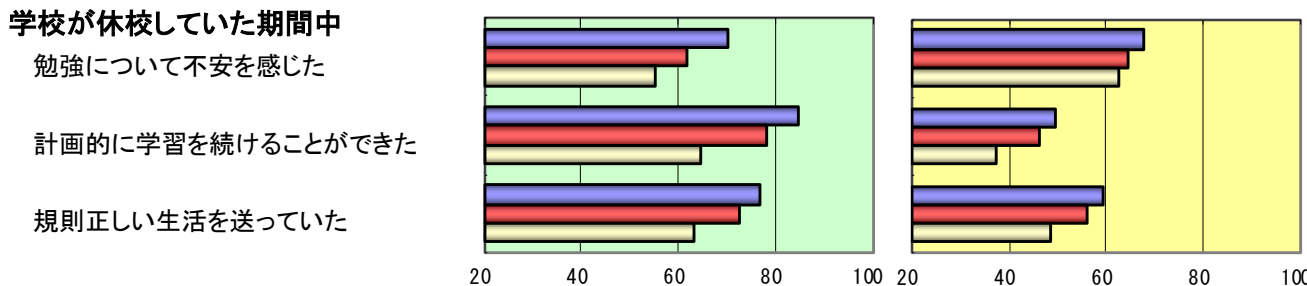
- 地域行事に参加している児童生徒の割合は、小学校において秋田県平均を下回っている。中学校では大きく上回っているものの、アフターコロナに向けて、特に小学校では地域連携の再構築が必要である。
- 中学生サミットを通してSDGsやSNSルールづくり等を進めていくとともに、地域行事の担い手としての活動を通して、地域活性化に寄与できる児童生徒の育成を進めていきたい。

【資料10】ICTを活用した学習状況



- ICTを活用した学習状況や家庭におけるICT活用に係る項目では、秋田県平均を上回っている項目もあるが、全国平均と比較すると大きく下回っている。今年度より大仙市GIGAスクール推進が本格的に動き出していることから、個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けて、より積極的な活用を推進していく必要がある。

【資料11】新型コロナウイルス感染症の影響



- 新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目では、休校中の学習に不安を感じた児童生徒の割合が高い中、計画的な学習や規則正しい生活が実施されている。大仙教育メソッドに基づいた学校と家庭・地域との連携による成果と捉えられる。

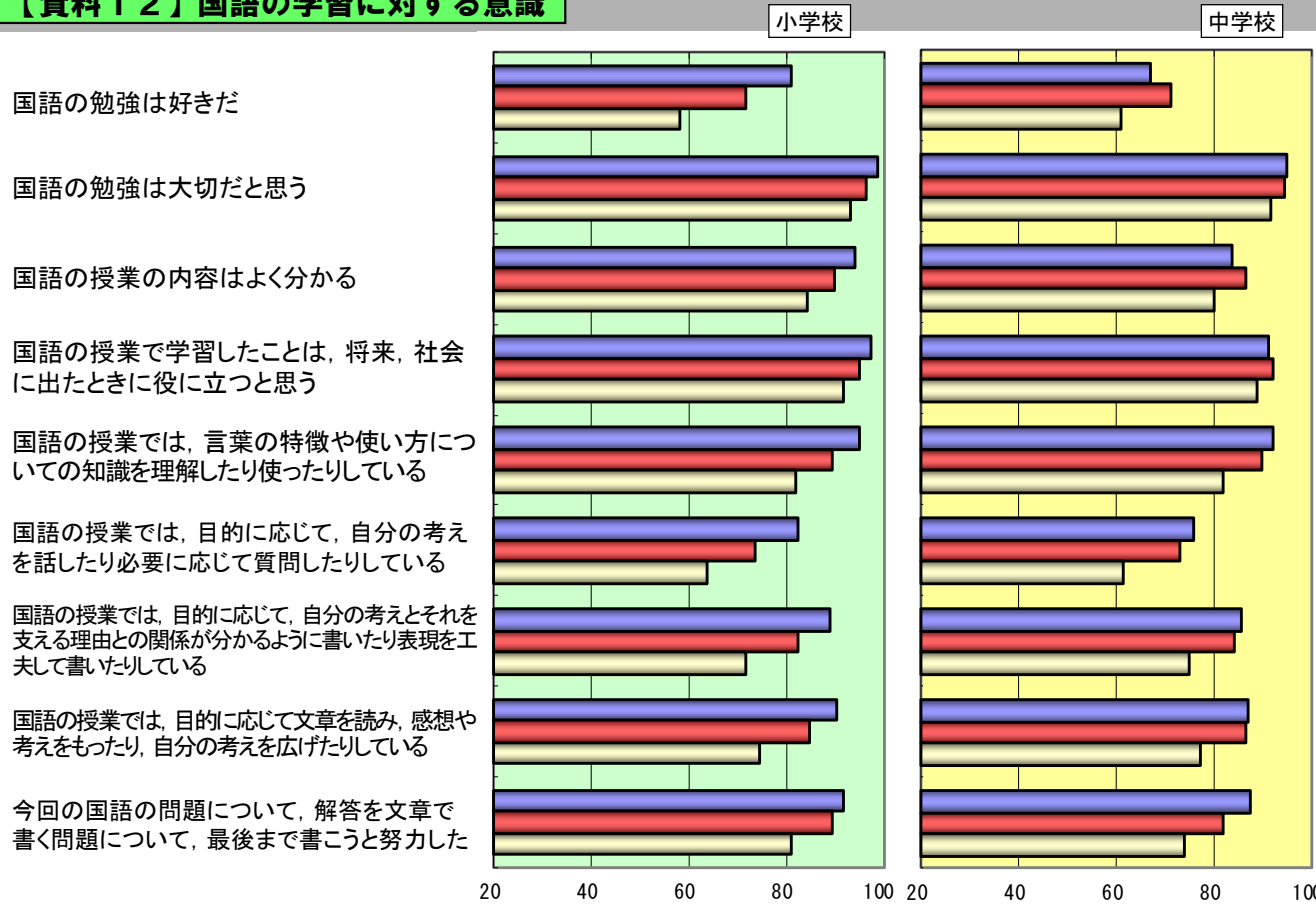


IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (6) 教科の学習に対する意識

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の
市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料12】国語の学習に対する意識



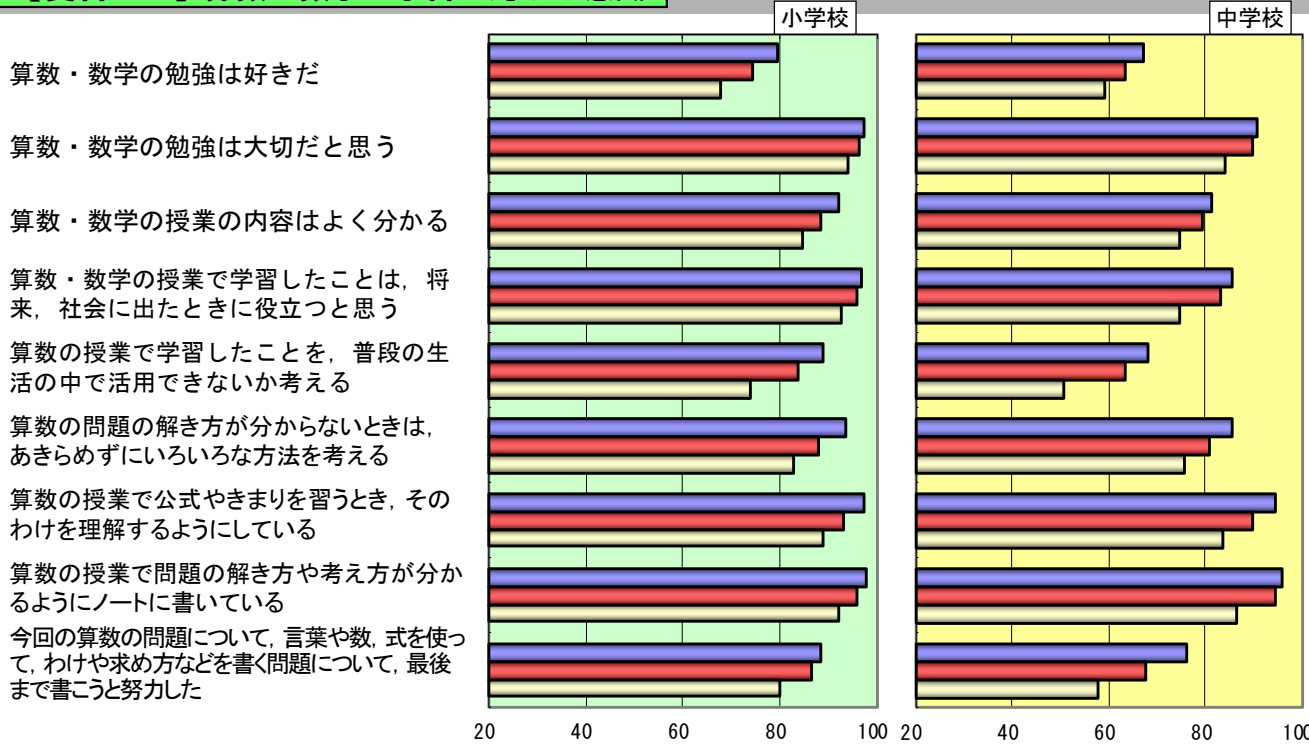
- 国語に関するほぼ全ての質問項目において、全国や本県の平均に比べ良好な状況にある。
- 特に成果が顕著な項目は、
 - ・「国語の勉強は大切だと思う」
 - ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う」
 - ・「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている」
 - ・「国語の問題について、解答を文章で書く問題について、最後まで書こうと努力した」
- 主体的に取り組むこと、相手を意識すること、目的に応じて最後まで努力すること等を意識している児童生徒が多いことがうかがえる。
- 目的に応じて文章や資料の情報を収集したり、自分の考えを話したり書いたりする意識は高いものの、正答率に結び付いていない傾向がある。活用を意識した単元づくりや基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る授業改善を図っていきたい。

■ 大仙市
■ 秋田県
■ 全国

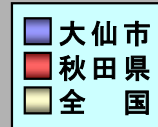
IV 学習環境に関する調査の結果

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料13】算数・数学の学習に対する意識



- 算数・数学に関する全ての質問項目において、国や県の平均に比べ良好な状況にある。
- 特に成果が顕著な項目は、
 - ・算数・数学の勉強は大切だと思う
 - ・公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている
 - ・問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている
- 主体的に取り組むこと、算数・数学を学ぶ価値、粘り強く取り組むこと等を意識している児童生徒が多いことがうかがえる。
- 全国や本県の割合と比べると高いが、「算数・数学が好き」の項目が、他の項目と比べ低くなっており、ICTの効果的な活用など更なる工夫改善を図っていきたい。



V 学習環境と学力調査との相関

1 概要 ○教科の正答率と相関がみられた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況は概ね良好である。

児童生徒質問紙において、質問紙の結果と科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

◎は相関が強い項目

【生活習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- 朝食を毎日食べる。（中学校国語・中学校数学）
- ◎毎日、同じくらいの時刻に寝る。（小学校国語・小学校算数）

【ICTを活用した学習】〈相関がみられた主な項目〉

- ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。（中学校国語・中学校数学）

【自己有用感・規範意識等】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。（中学校国語・中学校数学）
- 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる。（小学校算数・中学校国語・中学校数学）
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい。（中学校国語・中学校数学）

【新型コロナウイルス感染症の影響】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた。（小学校算数）

【授業への取組】〈相関がみられた主な項目〉

『国語』

- ◎国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている。（小学校国語・小学校算数・中学校国語・中学校数学）
- ◎国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている。（中学校国語・中学校数学）
- ◎国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしている。（中学校国語・中学校数学）

『算数・数学』

- ◎算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。（小学校国語・小学校算数・中学校数学）
- ◎算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。（小学校国語・小学校算数）
- ◎算数・数学の勉強は好きだ。（小学校算数・中学校数学）
- ◎算数・数学の授業の内容はよく分かる。（小学校算数・中学校数学）
- 算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。（小学校算数・中学校数学）

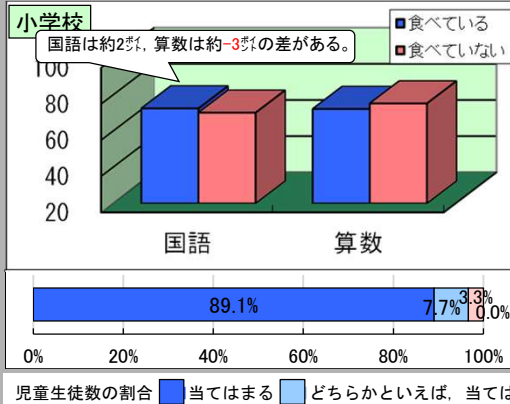
V 学習環境と学力調査とのクロス分析

2 相関

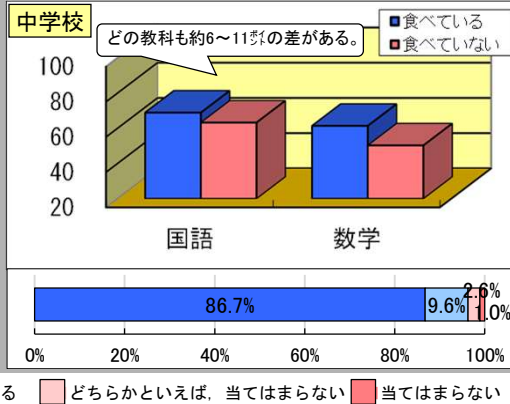
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

【生活習慣等】

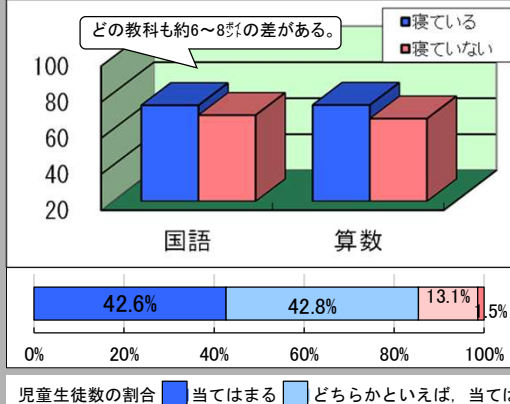
【朝食を毎日食べていますか】



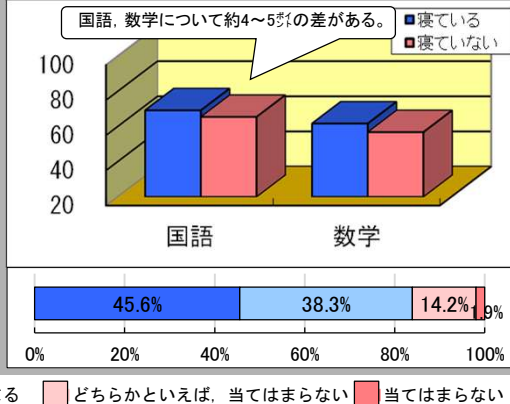
【朝食を毎日食べていますか】



【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】



【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】

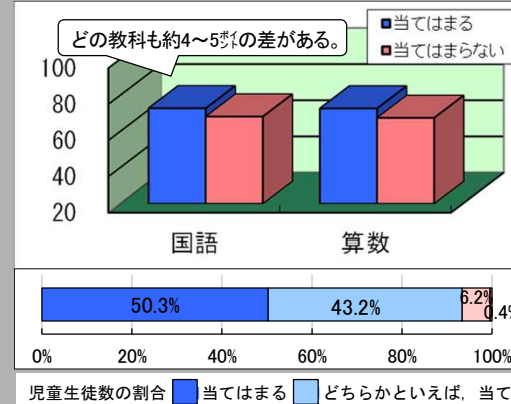


- 「朝食を食べている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、小学校算数を除いて平均正答率が高い。特に中学校において相関が顕著である。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に、小学校において相関が顕著である。

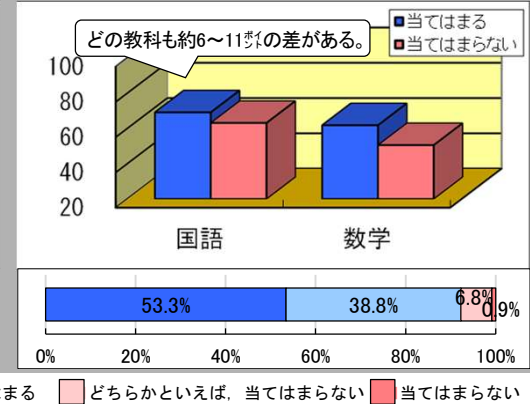
【自己有用感・規範意識等】

【資料14】

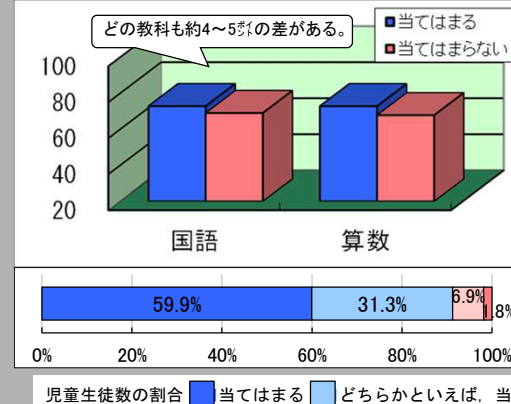
【自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか】



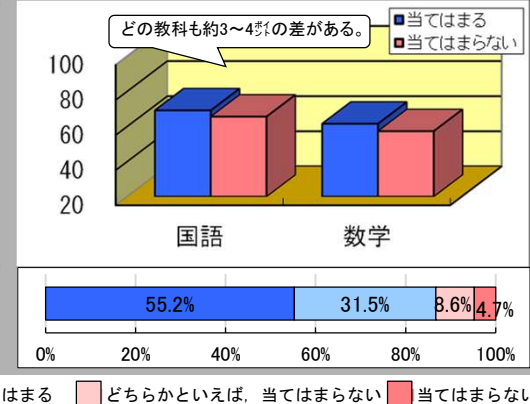
【自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか】



【学校に行くのは楽しいと思いますか】



【学校に行くのは楽しいと思いますか】



- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に中学校において相関が顕著である。
- 「学校に行くのが楽しい」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

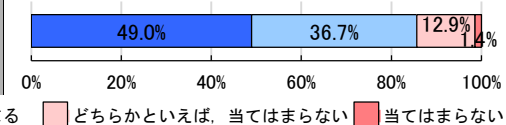
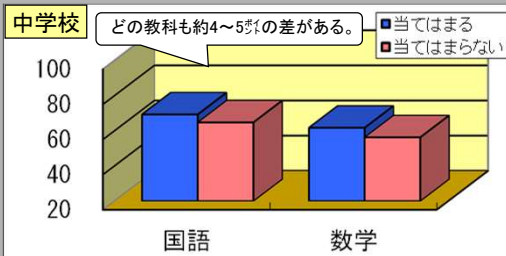
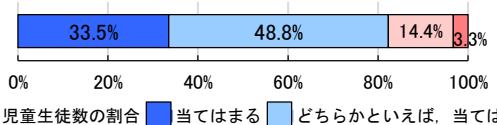
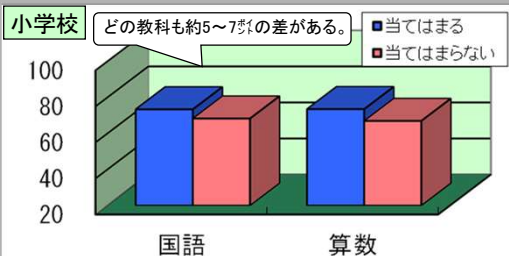
【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

【自己有用感・規範意識等】

【資料15】

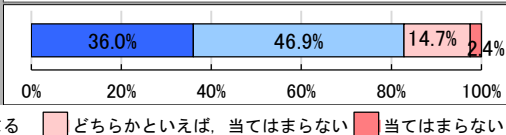
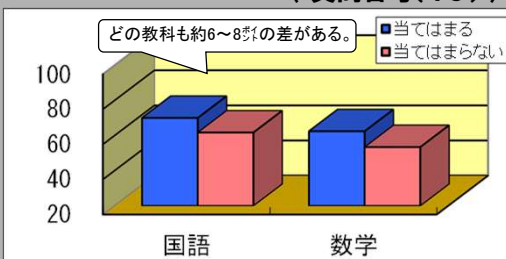
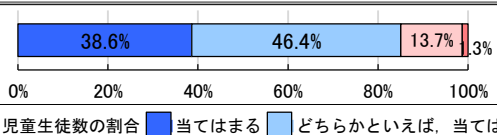
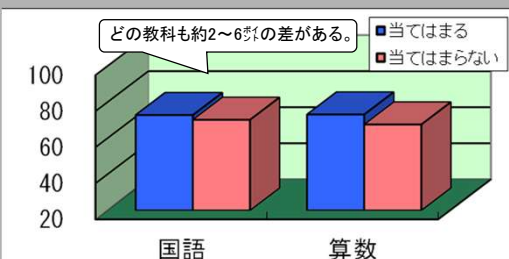
【自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか】

〈質問番号(14)〉



【自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか】

〈質問番号(15)〉



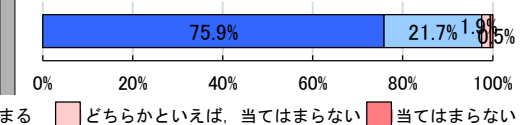
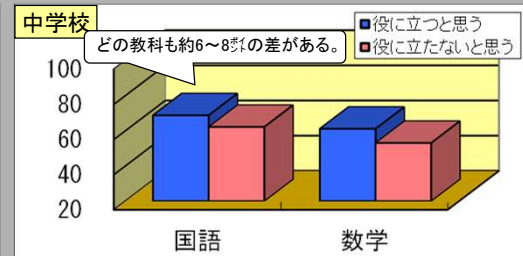
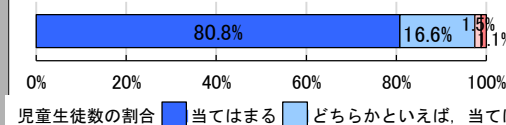
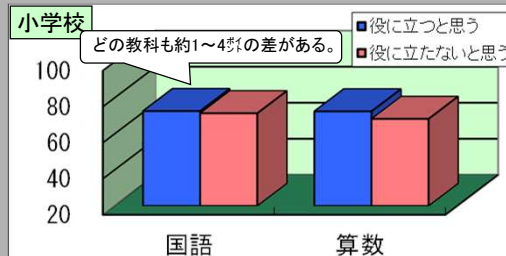
○「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【ICTを活用した学習】

【資料16】

【学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか】

〈質問番号(28)〉



○「ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

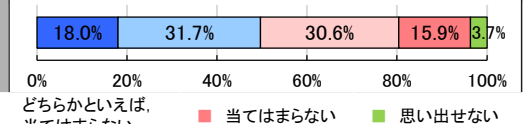
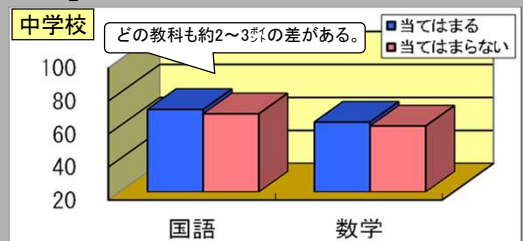
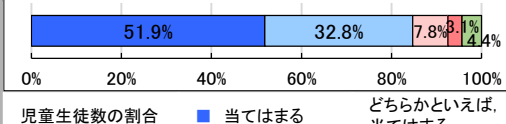
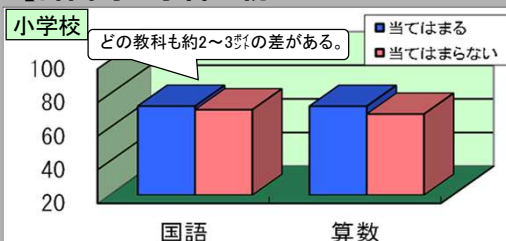
【新型コロナウイルス感染症の影響】

【資料17】

※新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中

【計画的に学習を続けることができましたか】

〈質問番号(65)〉



○「計画的に学習を続けることができました」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

【調査問題への取組】

〈国語〉

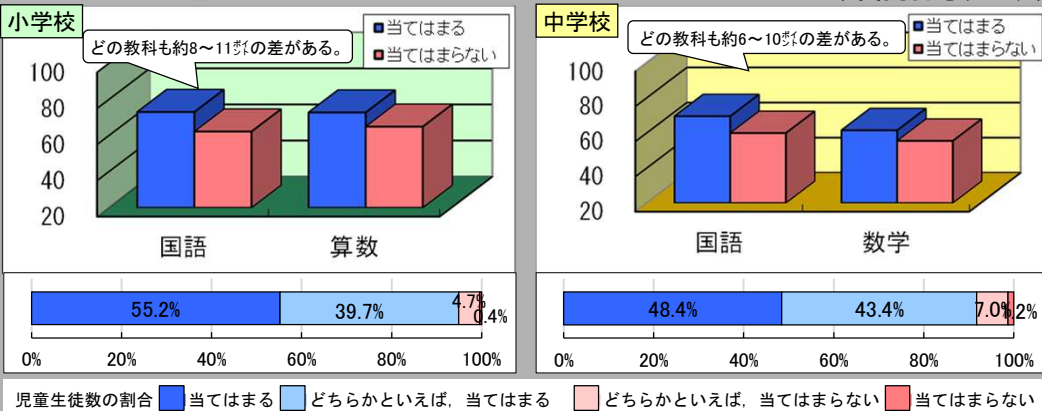
【資料18】

〈算数・数学〉

【資料19】

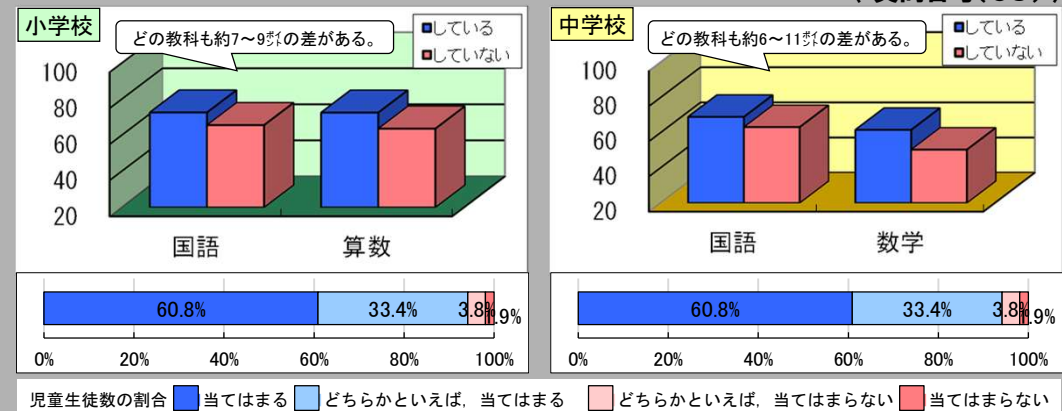
【国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか】

〈質問番号(47)〉



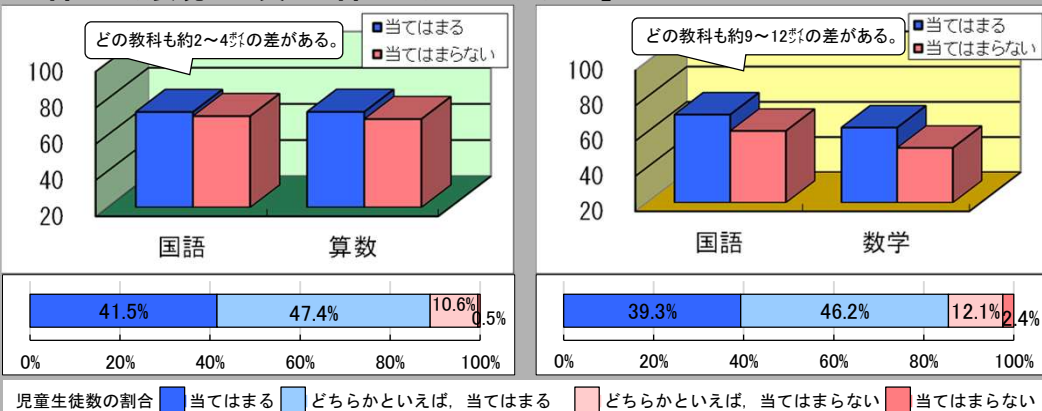
【算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか】

〈質問番号(58)〉



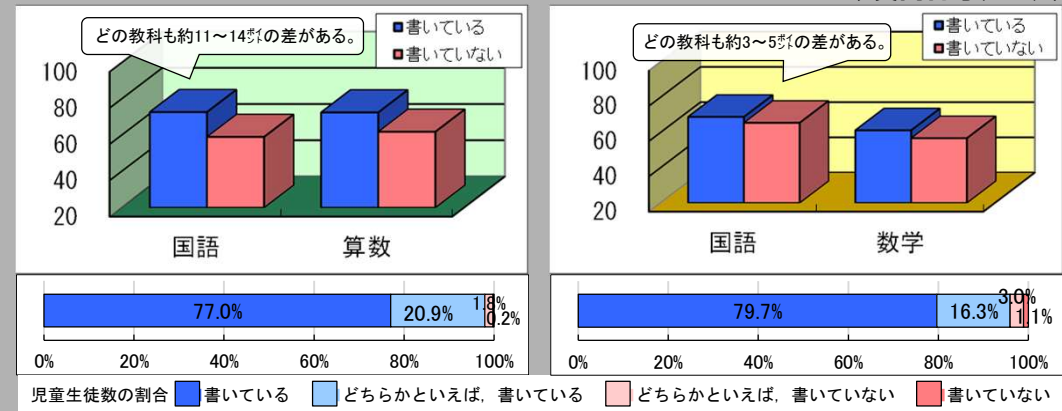
【国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか】

〈質問番号(49)〉



【算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか】

〈質問番号(59)〉



○「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか」「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

○「算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

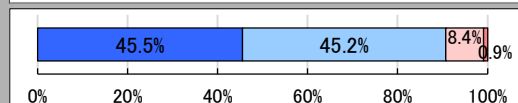
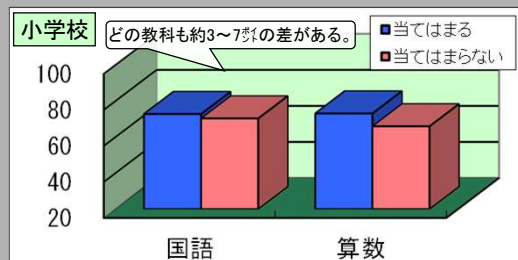
【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

【主体的・対話的で深い学び】

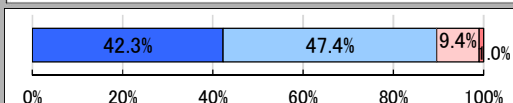
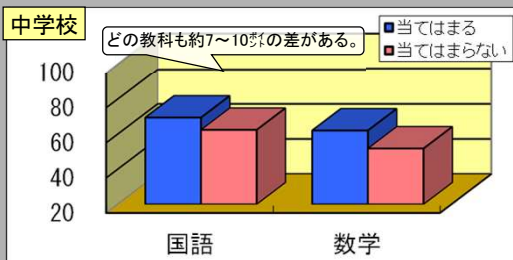
【資料20】

【課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか】

〈質問番号(33)〉



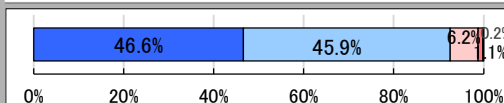
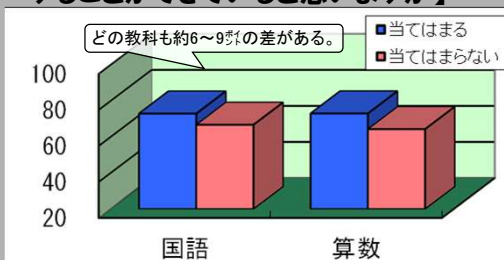
児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



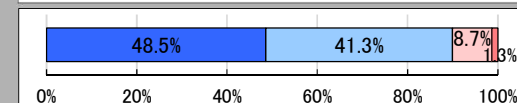
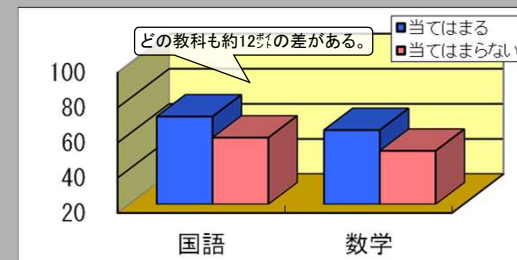
児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

【友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか】

〈質問番号(37)〉



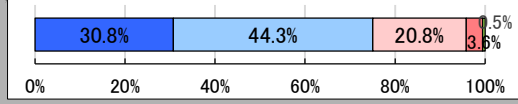
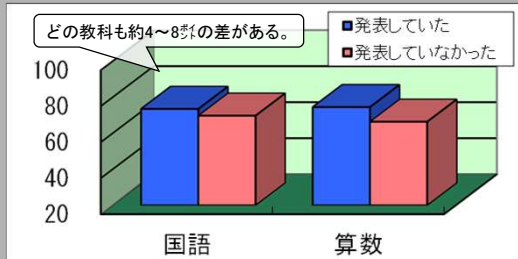
児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ 話し合う活動を行っていない ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



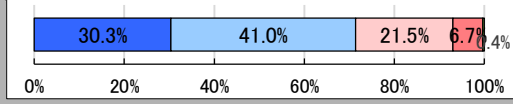
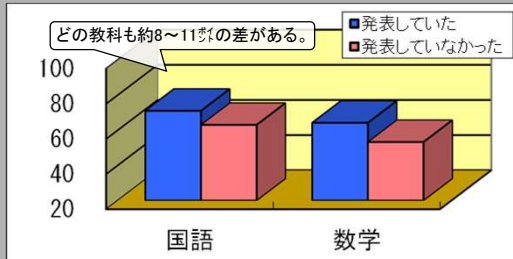
児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ 話し合う活動を行っていない ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

【自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や組み立てなどを工夫して発表していましたか】

〈質問番号(32)〉



児童生徒数の割合 ■ 発表していた ■ 発表してなかった ■ 発表する機会がなかった ■ どちらかといえば、発表していた ■ どちらかといえば、発表してなかった



児童生徒数の割合 ■ 発表していた ■ 発表してなかった ■ 発表する機会がなかった ■ どちらかといえば、発表していた ■ どちらかといえば、発表してなかった

【小学校：5年生までの授業 中学校：1，2年生のときの授業について】

「主体的な学び」…課題の解決に向け、自分で考え自分から取り組んだ
 「対話的な学び」…考えを発表する機会では、伝わるように工夫し発表した
 「深い学び」…話し合い活動を通じ、自分の考えを深めたり広げたりできた

- 昨年度までの授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実感する経験があると肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。
- 秋田の探究型授業を意識した先生方の不断の授業改善によるところが大きく、これまでの取組が成果として表れていると思われる。今後は、「当てはまる」「そう思う」と回答する児童生徒が、更に増えるような授業づくりを目指していきたい。

VI 学校質問紙調査の結果

1 概要

- 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導，習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の工夫改善等に関して，小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く，概ね好ましい取組状況にあると捉えている。
- 家庭や地域に開かれ小・中学校の接続を意識した教育課程の編成，児童生徒の学び方，生き方等に関わる指導，教職員研修等に関しても，小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く，各学校は積極的に取り組んでいると捉えている。

2 結果

(1) 学習指導－1

※R1年度の状況について回答するもの

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

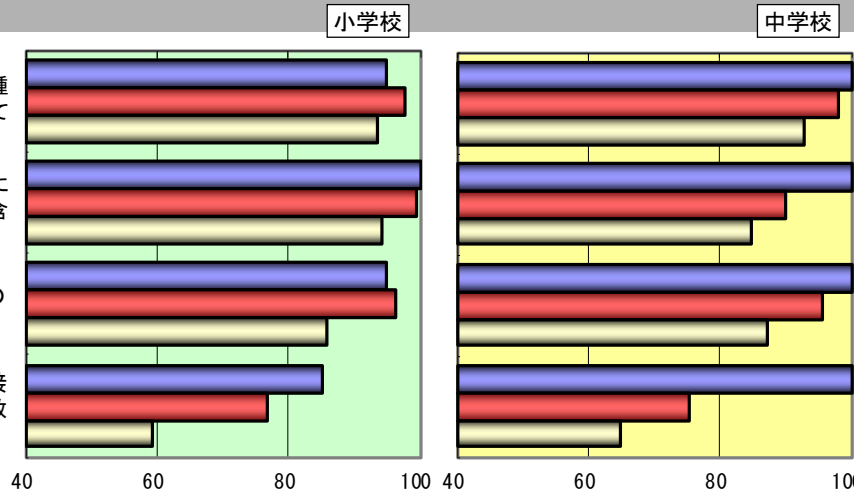
教育課程の編成

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

指導計画の作成に当たっては，教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

教育課程の趣旨について，家庭や地域との共有を図る取組を行っている

近隣等の小・中学校と，教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定など，教育課程に関する共通の取組を行った



【資料21】

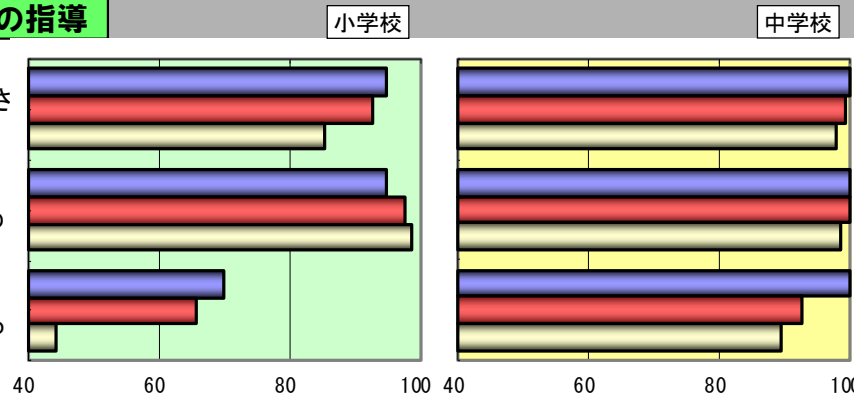
- 教育課程については，PDCAサイクルの確立，家庭や地域との情報の共有，小・中学校の接続を意識した編成など良好な状況にある。
- 「教育課程に関する共通の取組を行った」について，小学校と中学校では意識の差が見られる。内容について工夫改善を図っていきたい。

自己有用感の醸成，生き方等の指導

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

学校生活の中で，児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行った

職場見学や職場体験活動を行っている



- 児童生徒に夢や目標をもたせ，よい点や可能性を見付けて褒めるなど，自己有用感の醸成に努めていることがうかがえる。
- 「児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する」について，小学校では本県や全国を下回っている。子どもへの支援について再確認したい。

VI 学校質問紙調査の結果

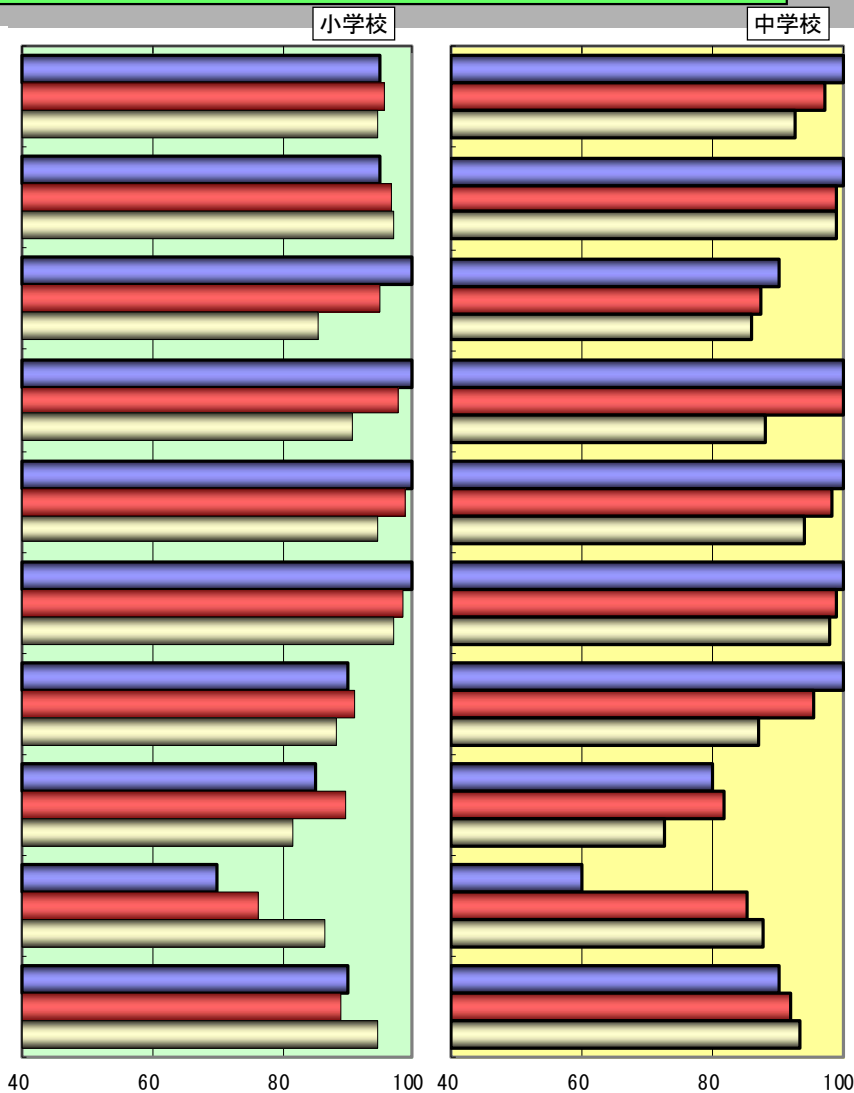
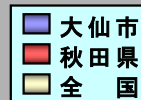
(1) 学習指導－2

※H31年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

学習指導(学習規律の定着, 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善, ICTの活用 等)

【資料22】



- 「総合的な学習の時間で探究の過程を意識した指導をしている」において, 小・中学校で100%行われている。
- 学級会で話し合い, 合意形成を図る指導や, 道徳において自分自身の問題として考え, 話し合う指導の工夫が, 小・中学校で100%行われている。
- 学習規律の徹底, 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫については, 中学校では100%行われている。
- 小学校において, 学習規律の徹底の項目が全国及び県の平均を下回っている。各学校ともかなり徹底されており, 特別意識しなくても維持されている状況と捉えている。
- 小学校において, 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫や教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会の設定について, 本県の平均を下回っており, 今後は活用・探究を意識した授業改善が望まれる。
- 教員におけるICTの活用については, 小・中学校共に, 全国や本県の平均を下回っているが, 現在進められている学校教育情報化の推進により, 今後の改善が図られるものと期待したい。
- 特別支援教育についての理解, 児童生徒の特性に応じた工夫については, 本県や全国の平均を下回っており, 児童生徒の発達を踏まえた指導に向け, 研修を継続していきたい。

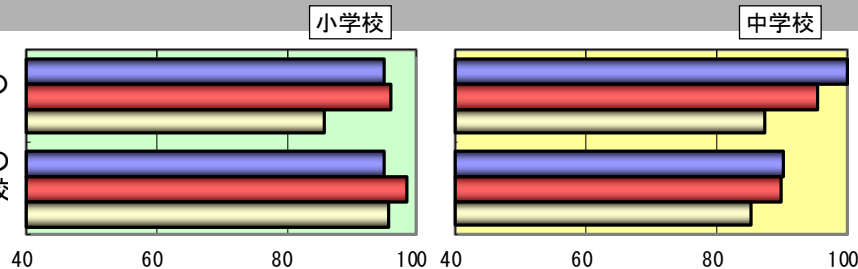
VI 学校質問紙調査の結果

(3) 交流と連携

家庭や地域との連携

教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている

保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している



【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

【資料23】

○保護者や地域の方の学校運営への参加に係る項目では、小学校では秋田県平均を下回り、中学校では同程度であった。令和元年度調査ではすべての学校が肯定的な回答であったが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策として取組の中止または制限があった影響と推測される。

(4) 学校の研修体制

教職員の研修等

校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている

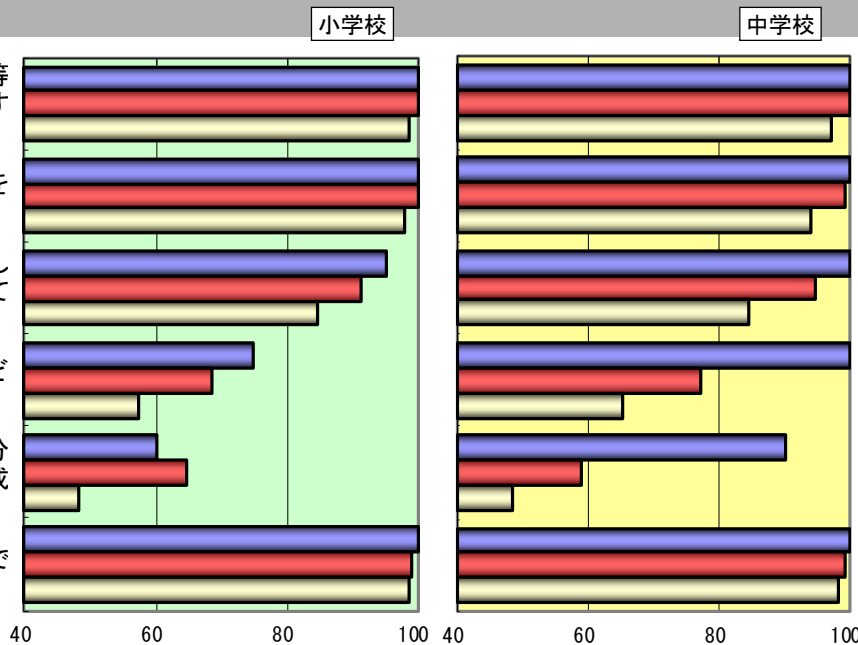
模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている

教職員は、校内外の研修や研究会に参加しその成果を教育活動に積極的に反映させている

近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど合同して研修を行った

令和元年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有した

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる



【資料24】

○小・中学校共に校内や郊外での研修を積極的に行っている。
 ○●授業研究に対して小・中学校が合同で研修を行うなど連携が図られており、全国や本県の平均よりも高い状況にある。ただし、小学校と中学校では達成度に対する意識に差が見られる。内容については工夫改善が求められる。
 ○学校運営については、全ての学校で、教員間で課題を共有し、組織的に取り組んでいることがうかがえる。

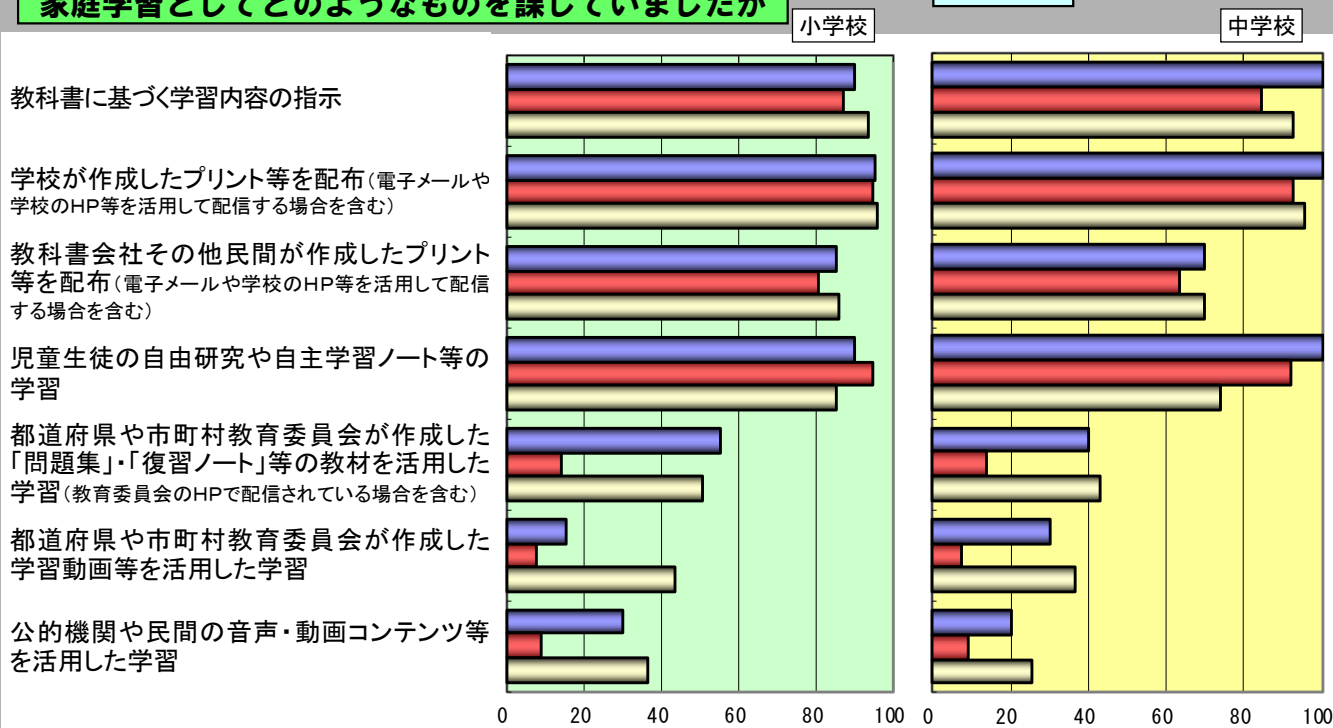
VI 学校質問紙調査の結果

(5) 令和2年4月以降の新型コロナウイルス感染症の影響による地域一斉の学校の臨時休業等の期間中の調査

【「基本的に全校で実施」＋「一部の学年・学級で実施」の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

家庭学習としてどのようなものを課していましたか

【資料25】



○教科書に基づく学習内容の指示や学校が作成したプリント等の配布により対応している。今後の非常時発生時においては、タブレット端末の活用を含めて、より効果的な対応が期待される。